

令和八年二月一日

令和八年度
入学試験
第一回
午前

国語

京華女子中学校

※解答用紙は本冊子にはさんでいます。

【問題は次のページから始まります】

□ 次の漢字に関する問いに答えなさい。

問一 ①～⑥の——線部のカタカナをそれぞれ漢字に直しなさい。

- ① 友達を仲間にクワえてサッカーをする。
- ② 全員で服装をトウイツする。
- ③ 新種の生き物をハツケンする。
- ④ 親戚しんせきの家をホウモンする。
- ⑤ 理科でデンリュウの実験をする。
- ⑥ 夏休みにスイゾクカンに出かける。

問二 ①～⑥の——線部の漢字の読みをそれぞれひらがなで答えなさい。

- ① 運動会は雨が降った場合、延期えんきです。
- ② 引越ひっこしをした友人から便りべんりが届く。
- ③ 自社の新商品を発表する。
- ④ 金銭きんせんの貸し借りはしてはいけない。
- ⑤ 社会の授業で人口分布じんこうぶんぷについて学ぶ。
- ⑥ マラソンを日課にっかにしている。

□ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「推しの素晴らしさを伝える文章」を書こう……！

そう気合を入れて、ファンレターを書くための便箋を買ってみたり、SNSアカウントを増やしてみたり、ブログを開設してみたりしたはいけれど。そのあと、あなたはなにをしますか？

「よし、最近めっちゃくちゃよかったライブの感想を書くぞ」と思ったとします。

なにから書こうか？ うっ、書くことが思いつかない。「よかった」しか言葉がでてこない。じゃあ、セトリリストの素晴らしさを書く？ すぐ聴きたかった曲が聴けたことについて？ あ、それともMCのよさ？ 推しの衣装について？ ああ、なにから書こう。というか、あのライブの一番よかったところってどこなんだろう？

先述したように、私は「推しの素晴らしさを言語化しようとしても、語彙力がなくて、いい言葉が思い浮かびません」と相談されることがたまにあります。

じつは私も同じで、すぐには言葉がでてきません。「推しの素晴らしさを伝える文章」を書きたいと思うとき、大抵まずは頭の中がわーっと騒がしくなっています。

推しの魅力とか、簡単に言葉にできない。「最高だった」「やばかった」「すごかった」しか浮かばない。「推しを見て感動した」、その先が言語化できない。

でも、私はその状態が悪いことだとはまったく思いません。なぜなら、感動が脳内ですぐに言語に変換されないのは当たり前のことなんです。

だって、感動とは言葉にならない感情のことを指すから。

注³ 古語に「あはれなり」という言葉があります。

これって「なんか胸がじーんとする」「グッとくる」「うわあって言いたくなる」といった感覚をひと言でまとめた語彙なんでしょうね。

胸になにかグッと飛び込んでくる。そして、感情がぶわっとあふれる。あふれた感情はプラスの場合（＝いいものだと思う）も、マイナスの場合（＝悲しいものだと思う）もどちらもある。

良くも悪くも、感情が振り切れる体験——それが古語の「あはれなり」です。昔の人は、よくこんな便利な言葉をつくったものですよ。

しかし、現代語には「あはれなり」に代わる語彙がない。

感動したとか、感激したとか、そういった言葉が一番近いですが「あはれなり」が指す感情すべてを包括する語彙はありません。だから私たちは、「あはれなり」の現代語バージョンとして、「やばい」という言葉をいつのまにか発明したのでしよう。

「やばい」って、それがプラスの感情だろうとマイナスの感情だろうと、どちらかに指標注⁵ しひょうが振り切れているといった意味ですよ。いいときもよくないときも、なにか自分の感情が大きく動くような事態に対して、私たちは「やばい」を使う。あれは古語の「あはれなり」とまったく同じ意味なんです。

これは余談よだんになりますが、そう考えている私は「『やばい』を使う最近の若者は語彙力がない！」って批判する気持ちがわからないんですよ。だって「やばい」って、要は X と同じ使い方をするんだから。平安時代はオツケーで現代ではダメなんて、意味がわからない！

そんなわけで、日本には昔から「感情が大きく動くこと」をひと言「あはれなり」でまとめてしまう文化があるわけです。

そして、なぜ「あはれなり」でまとめられるかという、もう、そう表現するしかないからです。

感情がぶわつと動く。なんだかすごいものを見た——なんだこれ。

目の前で起こったことに対する自分の感情を言語化できないほどに、未知の事態である。そういう状況をもって、私たちは本来の意味で感動する。

だとすれば、自分の感情をすぐさま言語化できないことを恥ずかしく思う必要はないですよ。むしろ、^①言語化できないほど感情を動かされるものに出会えたことを嬉しく思いました。そんな出会い、人生でなかなかあるものじゃない。

感情を大きく動かしてくれるって、それがたとえマイナスでもプラスでも、人生におけるすごく素敵なギフトです。^{注6}

しかし「じゃあ感動を呼びさましてくれた推しに感謝！ 感動は感動のままに、言語化せずに終わりましたよ！」だと……SNSにもブログにもファンレターにもなにも書けずに終わってしまいます。それは困りますよね。

いや、もちろん本当に感動した経験って、自分のなかに留めておいてもいいですよ。なにも無理に他人へ伝えなくても、自分の記憶として脳内に置いておくのも一手です。

しかし私は、「たとえ自分しか見ない日記やメモのなかだったとしても、自分の言葉で感動を言語化して、書き記しておくのはいいことなんじゃないか」派です。

なぜなら、自分の言葉で、自分の好きなものを語る——それによって、自分が自分に対して信頼できる「好き」をつくることができるから。

第1章の終盤に、私は「自分の好きなものや人を語ることは、結果的に自分を語ることであります」と書きました。そ

もそも、好きなものや素敵だなど思った人って、すごく大きな影響を自分に与えてくれますよね。もちろん嫌な経験や辛い出来事も自分を形づくるものではありませんが、やっぱり好きなことの影響は大きい。

だとすると、自分を構成するうえで大きなパーセンテージを占める好きなものについて言語化することは、自分を言語化することでもあります。

そして、なにかを好きでいる限り、その「好き」が揺らぐ日はぜったいにくる。私はそう思っているのです。

なにが起きても絶対に変わらず好き、なんてほとんどあり得ません。

【ア】すると自分の「好き」がよくわからなくなってしまふ、なんて体験もよく聞く話です。

【イ】スキヤンダルはわかりやすい例ですが、人によっては髪型やメイクを変えるイメチェンや、あるいは意外な趣味を持っていたことすら、「好き」が揺らぐきっかけになり得るかもしれません。

【ウ】または、すごく好きな映画があったけれど、他人が「駄作じゃん」って言ったのを聞いた途端、急に好きかどうかはなくなってしまった。

【エ】たとえば、あるアイドルがすごく好きでも、そのアイドルが自分の想像とはまったく違う行為をしていた。

【オ】これ、映画に限らず本でも漫画でもアニメでも音楽でも、よくあることです。他人がNGをだしているのを見て、急に「好き」が色褪せた経験、あなたにも一度はあるんじゃないでしょうか。

大人になって「好き」が冷めてしまうこともありますよね。昔すごく好きだったキャラクターなのに、大人になるとその魅力がわからなくなる。思春期にハマっていたミュージシャンの歌詞が、社会人になってなんとなくピンとこなくなる。これもよくある現象です。

そう、「好き」って、揺らぐものなんです。揺らがない「好き」なんてない。

自分も生きて変化していくのだから、好みも変わっていくのは当たり前です。もしくは、好きな相手が生身の人間だとしたら、相手だって変わっていきます。自分の思う通りに存在するわけがない。

だから、絶対的な「好き」なんてほぼあり得ないもの。そして「好き」が揺らいだとしても、それを嘆く必要はまったくありません。だって当たり前だから。むしろ揺らがない「好き」なんて、盲目的な執着であって、本当の意味で「好き」なわけじゃないのかもしれない。

「好き」は、一時的な儂い感情である。そんな前提を内包しているんですね。それは悲しいことでもなんでもなくて、そういうものなんです。

②でも、たとえ「好き」が揺らいで消失したとしても、一度「好き」を言葉にして残しておけば、その感情は自分のなかに残り続けます。

たとえば、推しがアイドルの場合。ライブや新曲を追いかけて、楽しい日々を送っていた。でも、スキヤンダルが発覚し、たくさんの人からそのアイドルが非難されて、自分もまたショックを受けた。そうするうちに、そのアイドルが好きではなくなってしまった。こんな悲しい出来事があつたとしましょう。

あなたは、そのアイドルを好きだったときに「好き」を言語化して、自分のスマホのメモ帳に残しておいた。スキヤンダル

から少し経って落ち着いて、そのメモを見返してみる。すると、もう存在しなくなった自分だけの「好き」が、そこに保存されているんです。

別に、それを読み返せばもう一度好きになることができる！ と言いたいわけではありません。

ただそこに、「好き」があったことを思い出せる。今はもう好きじゃなくても、いつのまにか自分の一部になっていた「好き」の感情が保存されている。これって意外と大切なことじゃないでしょうか。

もちろん、写真を残したり、グッズを置いておいたりすることも「好き」を保存するいい方法でしょう。

でも、一番鮮明に残る「好き」は言葉です。

「好き」は儚いからこそ、鮮度の高いうちに言葉で保存しておいたほうがいいんです。そして、言葉という真空パックに閉じ込めておく。

いつかやってくる「好き」じゃなくなる瞬間を見据えて、自分の「好き」を言葉で保存しておく。すると、「好き」の言語化が溜まってゆく。それは気づけば、丸ごと自分の価値観や人生になっているはずです。

誰かにけなされても、自分が変わっても、推しが変わってしまっても。自分の「好き」についての揺るぎない言語化があれば、自分の「好き」を信頼できるはずです。

自分の「好き」を信頼できることは、自分の価値観を信頼することにつながります。だって、好きなもので自分ではできあがっているのだから。

自分の「好き」を言語化していけばいくほど、自分についての解像度も上がる。だからこそ、自分の「好き」の鮮度が高いうちに言語化して保存したほうがいい——そう私は考えています。

そういえば、昔読んだ本のなかで、小説家の村上春樹さんがこんなことを言っていました。

走り続けるための理由はほんの少ししかないけれど、走るのをやめるための理由なら大型トラックいっぱいぶんはあるからだ。僕らにできるのは、その「ほんの少しの理由」をひとつひとつ大事に磨き続けることだけだ。暇をみつけては、せつせとくまなく磨き続けること。

村上春樹（『走ることについて語るときに僕の語ること』文春文庫版より引用）

これって「好き」についても同じことが言えると思うんです。

もちろん好きなものや人との蜜月の間は、好きでい続ける理由がたくさんある。好きな理由で自分のなかが満たされる。

一方で、蜜月の期間が終わって、好きなものや人についていろんなものが見えてくると、好きでい続ける理由がよくわからなくなる。そんな時期が、いつかはやってくるのです。

そういうときって、好きであることをやめるための理由は、どこにでも——それこそ大型トラックいっぱいぶん——落ちているものです。

だからこそ、数少ない好きな理由を言語化して、保存することに意味があるんです。好きという感情の輪郭を、自分でなぞって確認しておく。いつか好きじゃなくなっても「ああ、たしかにこの時期、私はこういうものが好きだったな」と思い出せるようにしておく。これって割と楽しいことだと思いませんか？

また、推しへの感動を言語化した文章をブログやSNSで発信したら、不特定多数の誰かに伝えることができる、という利点もありますよね。

自分の推しの魅力を発信することによって、それを見た誰かが自分と同じ推しを好きになってくれるかもしれない。推しを他人に好きになってもらうため、推しの仲間を増やすために「好き」を言語化してみる。

自分のためにも相手のためにも、「好き」を言葉にしておくことって、すごく意味のあることなんです。

(三宅香帆『「好き」を言語化する技術』による。なお、問題作成の都合上、一部改変した箇所がある)

注

- 1 セットリスト……音楽のライブやコンサートで演奏する曲の順番を記した一覧のこと。
- 2 MC……音楽のライブやコンサートで司会者や演奏者が場を和ませたり、盛り上げたりするために話すこと。
- 3 古語……昔に使用されていた言葉で、現在は使用されていない言葉のこと。
- 4 包括……一つに取りまとめること。
- 5 指標……状況を判断したり、物事を評価したりする時に基準となるデータや目印のこと。
- 6 ギフト……プレゼントや贈り物のこと。
- 7 内包……内部にもっていること。内部に含むこと。
- 8 蜜月……親密な関係のこと。

問一 【ア】 【オ】は文の順序が違っています。論理的に正しい順序に並べかえて、記号で答えなさい。ただし、【ウ】は四番目にくるものとします。

問二 X に入る語を本文中から、七字で抜き出しなさい。ただし、句読点・カギカッコなどの記号を含む場合は一字と数えます。

問三 ——線部①「言語化できないほど感情を動かされるものに出会えたことを嬉しく思いましょう」とありますが、なぜ筆者はこのように考えるのですか。最も適当なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 現代では使われなくなってしまう「あはれなり」という言葉を思い出すきっかけになるから。
- イ 私たちの人生に本当の意味での感動を与えてくれる贈り物のようなものであるから。
- ウ 貴重な経験をきっかけに自分たちの語彙力の低さに気づき言語化の練習をするようになるから。
- エ ほとんどの人が経験できないことであり、貴重な経験ができることによって人生が豊かになるから。

問四 ——線部「盲目」の本文中の意味として、最も適当なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 価値のあるものを見抜く力があること。
- イ 物事の分別ぶんべつが判断できないこと。
- ウ あまりにひどいので、見ていられないほどであること。
- エ 驚きのあまり、目が丸くなること。

問五 ———線部②「たとえ『好き』が揺らいで消失したとしても、一度『好き』を言葉にして残しておけば、その感情は自分のなかに残り続けます」について、次の（Ⅰ）・（Ⅱ）の間に答えなさい。

（Ⅰ） 筆者は、なぜ「好き」が揺らいでしまうものだと考えているのですか。理由を説明した次の文の にあてはまる語を本文中から八字で抜き出しなさい。ただし、句読点・カギカッコなどの記号を含む場合は一字と数えます。

「好き」には 八字 が含まれているから。

（Ⅱ） なぜ言葉にして残しておく必要があるのですか。最も適当なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 自分の一部であったものを思い出させてくれ、「好き」だったものを通して自分の価値を高めることができるから。
- イ 当時の気持ちを思い出させてくれ、もう一度「好き」になるきっかけを与えてくれるから。
- ウ 「好き」だったものが自分の価値観や人生に影響を与えていることに気づき、自分の価値観を信頼できるから。
- エ 当時の楽しかった思い出や悲しい思い出が自分の人生の財産になっていることに気づき、自信が持てるから。

問六 この文章を読んだ四人の生徒が本文の内容をそれぞれまとめました。この中でまちがった解釈をしている人を次のA～Dの中から一つ選び、記号で答えなさい。

A 推しに強く心を動かされたとき、その感動をすぐに言葉にすることは難しいです。しかし、それは感情が深く揺れ動いている証拠であり、自然な反応だと考えられます。また、感動の大きさは、言葉の多さで決まるわけではないため、うまく言い表せなくても恥ずかしかる必要はありません。

B 古語の「あはれなり」は、あふれる感情を一言で表した言葉であり、現代語の「やばい」もそれと同じように、感情の振れ幅が大きい状態を指します。そのため、「やばい」は語彙力の低下により使われるわけではないため、

C 自分は好きなものでできあがっています。自分の「好き」を言語化していけばいくほど、自分についての解像度も上がります。「好き」は鮮度の高いうちに言語化してメモ帳などに保存しておいた方がいいです。

D 推しに感動したときは、その思いをSNSやブログなどで発信することが大切です。外に向けて推しの魅力を発信することは、推しへの敬意を示すことになります。そのため、気持ちを言葉にせず心にとどめておくことは、推しに対して失礼なことだと言えます。

③ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

あれもこれも言いたくて、まとまらないという人は、「書きたいこと」という大きな袋ふくろの中に、あれもこれも雑多ざつたに入れている状態です。

まず、袋の中に何が入っているかをすべて出しましょう。

箇条書きでも、キーワードの羅列られいでもいいので、まずは思い浮かんだことを全部出す。順番や「これが本当に言いたいことか？」と考えるのはその後です。

何を書いていいかわからないときは、対象が広すぎるかもしれません。

a、自社商品や好きな歌手の魅力を語るなら「○○のいいところ」という大きなテーマではなく、「素材」「価格」や「歌唱力」など要素ごとに分けて書き出す。

ポイントを狭くせますればするほど、刺さることが書けます。

まず、「どこに着目するか」を決める。それが「自分が書く」意味です。

言葉というのは、あるできごとや気持ちの一部を切り取ったものです。

どれだけ言葉を尽くしても、すべて語り尽くせることはないし、ぴったりの言葉が見つかったと思っても、言葉にした途端に、何かがこぼれ落ちてしまいます。

① 文章を書くときも同じです。

「全部」は言えないから、どこかを切り取るしかないのです。

「必要なことは全部書かない」という意見もあるかもしれませんが。

でも、たとえばメールに、箇条書きで必要項目を並べるとしたら、箇条書きで書くとした時点で、詳細を省き、必要な項目を簡潔に書くということを選んで（＝詳細を省くという選択をしている）わけです。

「あれもこれも全部言おうとしない」「どこからどこまで書くかを決める」

「言葉や文章ですべてが伝わりきると過信しない」

こうした、ある意味の諦めが、伝わる文章を書く際には必要です。

私は、ある程度長文を書く際は、まず自分の箇条書きメモを作ります。

自分の脳内を整理する目的で、まず伝えたいことの流れをざっと書き出します。書き出した後、「読者」を設定して、どういう順番で伝えればわかりやすいかを考えて、メモの内容を並べ替えます。

初めに自分用に書き出したメモは、言葉遣いも、話の流れも、自分だけがわかればいいものです。でもそれを誰かに伝えたいのであれば、

- ・相手にわかる言葉で
 - ・相手にわかりやすい話の流れで
 - ・相手が受け取りやすい形にして
- 伝える必要があります。

思いや考えをうまく言葉にできず、書けない。

これは、どこかに「自分の思いを表す言葉」がないか探し続けている状態です。

でも、「自分の思いにぴったりの言葉」がどこかに転がっていることはないのです。探し続けるのではなく、うまく表現できているか、いいから、いったん書いてみましょう。最後まで書いて見直した際に、よりふさわしい言葉にしていけばOK

です。

ここでは、うまく言葉にできないときにおすすめの方法を3つ紹介しょうかいします。

① うまく言葉にできないんですけど、と言って話してみる

話しているうちに、だんだんと言いたいことを言語化できるようになります。独り言でもOK。自分が口にしたことをメモしたり、録音ろくおんしたりしてみてください。

② 頭に思い浮かんだ言葉を書き出して、類語辞典を引いてみる

類語辞典には、似たような言葉の別の表現がたくさんあります。

たとえば、「ダメ出しをされてへこんだ」ことを言いたいとき。類語辞典で「へこむ」を引くと、「引っ込む」「窪くぼむ」「陥没かんぼつ」「穴が開く」など様々な言葉が並んでいます。

類語辞典を引く癖くせをつけていくと、表現のバリエーションが増えていきます。③ 使える鉛筆えんぴつが黒1本だったのが、24色、36色の色鉛筆になるように、使える色が増えていくのです。

③ 「何が一番」と「なぜ」を考える

「お客様からダメ出しをされてへこんだ」。これだけでは、小学生の作文のようです。

「何が一番」と「なぜ」を考えてみましょう。

- ・ お客様からダメ出しをされてへこんだ。
- ・ 何が一番悔くやしかったのかと言うと、いつの間にか慣れでこなすように仕事をしていた点を指摘されたことだ。
- ・ 薄々うすうすまづいと気づいていたのだから、早く修正しておけばよかった。

b

、もう一步踏ふみみ込むこむとしたら、

「c」、「何が一番」と「なぜ（そう思ったのか）」を掘り下げると、うまく言葉にできていなかったとしても、自分の気持ちを整理できます。

言葉にできないときは、とにかく「小さく分ける」。

大きなものを、そのまま相手に渡すのではなく、相手が受け取りやすい大きさに分けて、相手が受け取りやすい形にして渡す。これが鉄則です。

「この文章でいいですか」「このやり方であっていますか」

講座や研修をしていると、こう聞かれることがよくあります。

計算式には正解があるけれど、自分の考えや意見には、正解も不正解もありません。

自分の考えや意見を言葉にする前に、

「こんなときはどうするのが正解？」「みんなはどうしている？」

と周りの目、Y、他者の評価ばかりを気にしていると、自分の意見など言えません。自分の意見がないと、文章も書けなくなってしまう。

レビューを書いて華々しくPVを稼いでいる人を見たら、自分の意見が大したことがないように見えるのはしょうがないものです。

だけど、他の誰でもない、私には私の感情があり、私の視点があり、今、このときに自分が感じたことがあるのです。

なんとなくそれっぽいことを、相手のほしい形にして、当てに行くような文章ばかりを書いていたら、自分の意見がなくなります。

正解かどうか、人に注目されたり褒められたりするかどうかの前に、自分だけの考えを意見を思いを、言葉にすることが大

事です。それは他の誰にもできない、あなたにしかできないことだからです。

(さわらぎ寛子^{ひろこ} 『自分の言葉で書く 思いが届く・相手が動く「文章」の書き方』による)

なお、問題作成の都合上、一部改変した箇所がある)

問一

a

く

c

に入る語の組み合わせとして、最も適当なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア a そこで

b こうして

c つまり

イ a たとえば

b そこで

c こうして

ウ a たとえば

b そして

c こうして

エ a そこで

b たとえば

c つまり

問二 —— 線部①「文章を書くときも同じです」とありますが、「文章を書くとき」と「言葉にするとき」とでどのような点が同じなのですか。次の [] にあてはまる文を本文中の言葉を使って四十字以内で補い、説明しなさい。ただし、

句読点・カギカッコなどの記号を含む場合は一字と数えます。

文章で書くときも言葉にするときと同じように、

[] 四十字

問三 ——— 線部② 「探し続けるのではなく、うまく表現できていなくてもいいから、いったん書いてみましょう」とありますが、「物事は実際に行^{おこな}ってみると、事前に心配していたよりも簡単にいくものだ」という意味を表すことわざを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 口は災^{わざわ}いのもと
- イ 歯^{きぬ}に衣着せぬ
- ウ 案^{あん}ずるより産^{やす}むが易^{やす}し
- エ 論^{ろん}より証^{しょうこ}拠

問四 ——— 線部③ 「使える鉛筆が黒1本だったのが、24色、36色の色鉛筆になるように、使える色が増えていく」とありますが、これはどのようなことをたとえていますか。最も適当なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 類語辞典を引くことで表現できる言葉が増え、バリエーション豊かな文章が書けるようになること。
- イ 類語辞典を引くことで辞書の正しい使い方を習^{しゅうとく}得し、文章を書く上で辞書が欠かせないものになること。
- ウ 黒い鉛筆を使って書くよりも、色鉛筆を使うほうが表現力が豊かになること。
- エ 黒い鉛筆を使って書くよりも、色鉛筆を使うほうが華やかな印象になること。

問五 ——— 線部④「こう聞かれることがよくあります」とありますが、筆者は聞かれたことに対して、どのような返答をすると考えられますか。本文の内容を参考にして、最も適当と考えられるものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「みんなのやり方を参考にして、同じように書いてみてください」

イ 「意見に正解や不正解はないのだから、自分の感じたことを大切にして書いてみてください」

ウ 「計算式に正解があるように、自分の考えや意見にも正解があるのだから、自分を信じて書いてみてください」

エ 「相手が喜んだり、相手に褒められたりするような文章を意識して書いてみてください」

問六 Y に入る語として、最も適当なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 私の意見

イ 自分の視点

ウ 相手の文章

エ 世間の基準

問七 国語の授業の発表で「六年生の一年間であつたうれしかったこと」を発表することになりました。友人が「『うれしかったこと』をうまく言葉にすることができない」とあなたにアドバイスを求めてきました。あなたならどのようなアドバイスをしますか。本文の内容を参考にして、あなたの考えを書きなさい。